

整理番号	44-14	事務事業名	(文化財保存活用事業) 郷土資料編集事業	作成部署	生涯学習部 社会教育課	電話	内線891	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内 平一郎	課長職名	可児 正樹	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	平成13年	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付規則					
" 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	地域の歴史文化の伝承のため、市民からの採話・編集を行い、郷土意識の高揚を図る目的で開始した。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐくむまち	(第4章)
	節	芸術と文化	(第4節)
	施策	歴史・文化の継承	(第4施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	市民及び郷土資料	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	郷土の歴史資料として伝承していくため採話を編集し、市民に広く普及させ歴史を重んずる心を培うことを目的とする。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	・追採話事業 ・編集作業及び編集会議(テープ起し作業と編修にかかる一連の作業) ・ふるさと採話文庫の発行(平成15年までに刊行した11冊の合冊版を刊行)
		17年度	・追採話事業 ・編集作業及び編集会議(テープ起し作業と編修にかかる一連の作業)

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	320	200	100	100
	合計	320	200	100	100
人件費 (概算)	人数(年間)	0.01	0.01	0.01	0.01
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	90	90	90
総事業費 +	410	290	190	190	

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	聞き取り調査人数	10人	7人	3人	5人
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	冊子製作部数	300冊	100冊	500冊	100冊
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	一冊あたりのコスト (総事業費÷冊数)	1067円	2001円	200円	1001円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	急激な都市化・環境の変化により、歴史的価値観を持つ人が少ない中、地域の歴史文化を伝承できる人たちがすでに高齢化している状況のため早急に対応し採話を編集しなければならない。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	本来市が行っていくべきであり、市の関与は妥当。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	歴史的価値観をもつ人は減少しているため、後世に継承していくという観点から意図としては妥当と考える。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市民団体との協同作業であり、手段は適切である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	採話編集を行い文庫の発行を行っているため効果は上がっている。	広く市民に周知を図る。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	市民団体との協同作業であり、事業としては概ね効率的となる。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法等を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	すでに高齢化している市民からの聞き取り調査を早急に行う必要がある。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価の状況から、本事業の終期を設定し、集中的に取り組むこと。

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	44-14
------	-------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	郷土資料編集実行委員会交付金		
交付先の名称及び代表者名	郷土資料編集実行委員会 会長 荒木 順子	設立年	平成13年
構成員(団体)数	5名 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	郷土の歴史資料として伝承していくため採話を編集し、市民に広く普及させ歴史を重んずる心を培うことを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	1追採話事業 2編集作業及び編集会議:テープ起し作業と編集にかかる一連の作業を行う。		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	320	200	100	
	その他収入	0	1	0	
	繰越金	1	0	0	
	収入合計(B)	321	201	100	
支 出	報償費	190	120	40	
	旅費	0	2	0	
	消耗品費	68	40	46	
	印刷製本費	63	30	10	
	会議費	0	5	3	
	郵便料	0	3	1	
	予備費	0	1	0	
	支出合計(C)	321	201	100	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	0	0	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		100 %	100 %	100 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		全ての経費	全ての経費	全ての経費	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		321	201	100	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		100 %	100 %	100 %	
補助・交付金の算出根拠	定額(平成15年度:320千円、平成16年度:200千円、平成17年度:100千円)				